

プロセスについて

プロセス

- プロセスの「ばらつき」に関する検討…手術・処置、化学療法
- 診療プロセスの「妥当性」の評価
- 包括範囲についての検証：化学療法、高額処置・材料など

ケースミックス と パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な傷病の診療を評価する「複雑性指数」 効率よい診療を評価する「効率性指標」 稀少な傷病の診療を評価する「稀少性指数」 重症患者への対応状況：副傷病スコア（Charlsonスコア）
ストラクチャー （構造）	<ul style="list-style-type: none"> 施設の外的基準→構造及び人的資源等についての調査 望ましい5基準の状況：救急医療、ICU、画像診断、麻酔、病理… 診療情報の質の評価：EFファイルの適切性、ICD10コーディング…
地域での役割 （貢献度）	<ul style="list-style-type: none"> 患者シェア、専門性、希少性の高い疾患、難易度の高い手術… 4疾病・5事業への対応状況

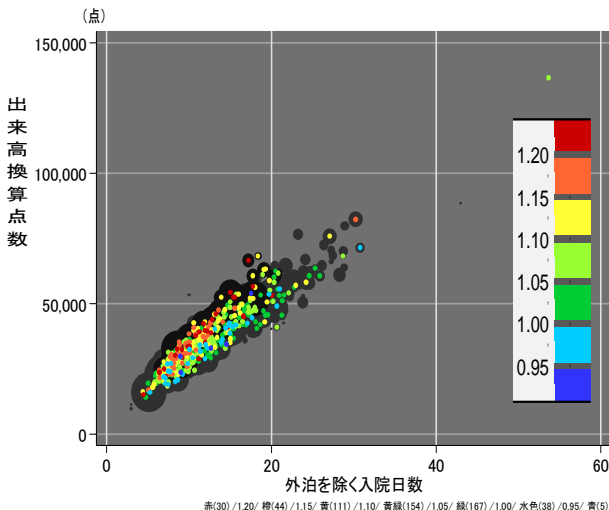
出典 平成20年7月30日 DPC評価分科会 松田研究班提出資料より抜粋

プロセスについて1-①

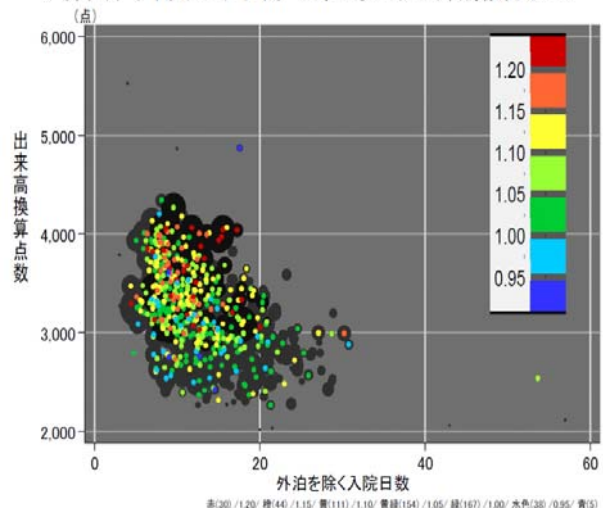
【これまでの検討】

- 同じ診断群分類であっても、医療資源の投入量や入院期間に「ばらつき」が大きいことが示されている。

入院日数と1入院当たり包括範囲診療行為
（肺炎、手術なし、手術・処置等2なし、副傷病なし）



入院日数と1日当たり包括範囲診療行為
（肺炎、手術なし、手術・処置等2なし、副傷病なし）



出典 平成20年10月3日 DPC評価分科会 松田研究班提出資料より抜粋